
from sky ~ **誰も知らない夏の恋** ~

正裕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

f r o m s k y } 誰も知らない夏の恋 }

【Nコード】

N 4 8 8 9 0

【作者名】

正裕

【あらすじ】

これは飛べない天使と一人の少年のある夏のできごと

主要人物紹介

ミレ：空から落ちてきた飛べない天使。

天から学校の屋上に墮ち屋上から飛びたとうとしたが飛べずに転落。孤独で空いた心の隙間を埋めてくれる流に惹かれる。

流（立花流）何の変鉄もない高校生活に飽き飽きしていた2年生。

最近の趣味は窓際の一番後ろの席で授業中に空を見ること。
そこで飛びたてず転落していくミレが偶然視界に入る。
飽き飽きしていた日常を一変させてくれるミレに好奇心と共に好意
を寄せていく。

飛べない孤独の天使ミレと平凡な日常に飽きた流。
偶然で出会った2人は互いの足りないモノを埋めてくれる存在だと
気付いてく。

天使と人間。結ばれない恋とわかっけていても…
ずっと一緒にいたいから…

第一章 - 流 -

第一章 - 流 -

「であるからにして鎌倉幕府が」

セミの鳴き声に張り合う音量で授業を進めている

相変わらず暇な日本史

教科書に書いてることをそのまんま言ってる授業は聞く価値すらない

だから山野の授業は聞かない。

と言うように立花流^{りゅう}はいつもの様に窓の外に目をやった

聞く価値もない授業は決まって窓の外の景色を見る。

流の最近の趣味だった。

それに窓の外の景色を見れるのは窓際の席の「特権」なのだから
「それを使わなくちゃ」という流のよく分からない考えもあった

流のクラスは最上階の4階であるため景色もそれなりに良かった

今日は快晴だ

昨日は曇り、一昨日は雨、その前は…

何て考えながらも夕々のお天気を楽しみながら流は景色を眺めていた。

青い絵の具でキャンバスを全部塗ったかのような真っ青の空、目線をずらすと

山の奥の方に見える入道雲

(梅雨は明けたはずだが…)
と思ったが、この青さにあの真っ白な入道雲は流の眼には光るよう
に見えていた

「綺麗だ…」

何て呟きながら授業は進んでいっていた

どのくらい授業が進んだだろう

精々15分くらいか

いつしか流は睡魔に襲われかけていた。

頬杖をつきながら窓の外を眺めうつらうつらしていた
雲は静かそしてゆっくりと流っていた

落ちそうになったペンを眠気眼で止め、欠伸をしながらゆっくりと
伸びをした。

(いつになく今日は眠い…天気が良いからか?)

そう感じながらも

また景色に目をやった

その時だった

サッと窓の外に人影が映った

まっ逆さまに落ちていく人影だ

(自殺!?)

流の頭に浮かんだ2文字はさっきまでであった眠気など何処かへ消し去ってしまった
いた

4階の上は屋上。学校で一番高い場所。飛び降りるなら普通はそこからだ

突然起きた事に頭の中は混乱していた

「えっ!!嘘だろ!?!」

授業中ということなど忘れて叫んでいた

流は窓を開け身を乗り出して下を見た

「いない…」

流の行動に驚き騒ぐ生徒たち

教科書を読み続けていた山野もこの騒がしさに気付き授業開始からずっと持って

いた教科書を教卓に叩きつけた

「立花!!授業中だぞ座れ!!それとも何かあったのか?」

山野に怒鳴られた流は考えた

本当の事を言っても誰も信じてくれる筈がない

「ト、トイレ行ってきまーす！」

山野の返事も聞かず駆け足で教室から飛び出した

もちろん向かう先はトイレ何かじゃない

人が落ちたと思われる場所だ

目的の場所に着くと流は辺りの草むらを探しだした

「上からは見えなかった…何で…ここにいないのか？でも確かに落ちたとしたらここだろ…」

自問自答を繰り返して草むらを探していると微かに声が聞こえた

その微かばかりの声を頼りに進んでいくと…

「…見つけた…」

呟いた先にいたのは

白く透き通った肌、繊細な指、流れる様な黒髪、どれをとっても綺麗としか言えなかった

流は見とれていた

だがそれは人間では無かった

「え…？何これ…」

背中から生えた白い翼…

飽き飽きしていた日常が音を立てて崩れていくような気がした

「これは何だ…」

流の中には大きな好奇心と小さな恐怖が入り交じっていた

第一章 - 流 - 終

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4889o/>

from sky ~ 誰も知らない夏の恋 ~

2010年10月24日16時40分発行